



平成 26 年度 (第 33 回) 九州学生選手権競技 (第 13 回) 九州女子学生選手権競技

競技報告 (2014/6/4-5)

写真と記事 : M. Kikutake

今村勇貴 (日本経済大 4 年) が初優勝 プレーオフで中村宏樹 (長崎国際大 3 年) を下す

福岡県飯塚市の茜ゴルフクラブ (男子 7085 ㌦、女子 6095 ㌦=パー72) で行われ、男子は通算 3 アンダー、141 で並んだ 2 人によるプレーオフの結果、今村勇貴 (日本経済大 4 年) が 6 ホール目で中村宏樹 (長崎国際大 3 年) を下し、初優勝した。

通算 3 アンダーで並び プレーオフへ

プレーオフはお互い一歩も譲らない緊迫した展開。決着がついたのは 6 ホール目の 15 番 (パー 3) グリーンだった。ピン上 7 m の中村が決めきれず、上り 5 m につけていた今村がこれを沈め、優勝を手繰り寄せた。

この日 68 の合掌一貴 (日本経済大 1 年) が初日の 16 位タイから浮上、71 の西山大輝 (同 3 年) とともに 1 打差の 3 位タイ。初日 69 で首位の山代遼 (同 1 年) はこの日 4 オーバーと乱れ、通算 1 オーバーの 5 位で、前年優勝の上畠誠人 (東海大 4 年) は通算 4 オーバーで 16 位タイに終わった。

男子は 74 人 (欠場 1 人) が出場。梅雨の合間の好コンディションにも恵まれ、初日は 3 アンダーで単独首位の山代から 1 オーバーの 73 までに 15 人がひしめく混戦のスタート。最終日はそんな中らスコアを伸ばした最終組の 2 人の争いとなり、プレーオフにもつれこんだ。

優勝した今村は第 68 回日本学生選手権 (8 月 26 日から、岐阜県スプリングフィールド G C) への出場権を得た。



通算 3 オーバーの 147 女子 比嘉奈津美 (名桜大 3 年) が逆転初優勝

6 選手で争われた女子は比嘉奈津美 (沖縄・名桜大 3 年) が通算 3 オーバー、147 で初優勝した。

初日首位の饒平名まなみ (琉球大 2 年) に 4 打差、2 位で最終日を迎えた比嘉は 2 バーディー、1 ダブルボギーの 72 と安定したスコアで回り、饒平名に逆転、2 打差をつけての勝利だった。

初日 71 と好スタートだった饒平名はこの日 78 とスコアを乱し、連覇はならなかった。さらに 6 打差の 3 位タイは下地里枝 (名桜大 4 年) と山崎琉日 (福岡大 1 年) の 2 人だった。



自分を信じて、自分のストロークで

初体験のプレーオフを制した今村勇貴

プレーオフとなった6ホール目の最後のパット。上り5mのフックライン。レフティの今村は、「自分に負けずに、自分のストロークを心がけて打った」と言う。ボールは吸い込まれるようにカップに消え、今村は両手を突き上げ2度、3度とガッツポーズ。自身初めてのプレーオフ経験で、九州学生チャンピオンの座を勝ち取った。

振り返って今村は、「このまま9ホールまで行くんじゃないかと思った」とも言う。10番ホールからの中村宏樹とのプレーオフ。お互いに入れたら入れ返すと言う気が抜けない展開。その15番ホール。ピン上7mにつけていた中村は、「寄せるつもりで…」と下りの距離感を合わせて打った。今村は、「自分のストロークで」と入れに行き、結果的にそのちょっとした心の持ちようが勝負の分かれ目になったともいえる。

北海道石狩市出身で札幌光星高校から、「シーズンを通じて競技ができる」と福岡の日経大に進学してきた。大学1年の2011年北海道アマチュア選手権を18歳10カ月の最年少優勝し、高橋勝成（現プロ）の記録を42年ぶりに塗り替えた。

しかし、九州に来てからは今イチ、伸び悩んだ。それが今季は先の九州アマでも優勝を争えるようになり（結果は4位タイ）、にわかに注目を集めた。

オフトレの成果？ 聞いてみるとその背景にあったのは、太り過ぎた身体を絞るダイエット作戦だった。不摂生がたたって昨年、164センチの身長に対し、体重が89キログラムにまでなった。見かねた両親が石狩から筑紫野市へと転居。豆腐サラダダイエットと1日7キログラムのランニングを課した。これが功を奏し、13キログラムの減量に成功したのだ。

「身体の切れが戻ったんです」と今村だ。加えて、自身の持ち味でもある「曲げない打球でコツコツやるゴルフがやれた」と言う。ショートを除く14ホールのうち11ホールでフェアウエーをキープ。「結構しのいだラウンドができたと思います」と自信を見せた。

この後は出場権が取れた日本学生選手権。「九州代表だから」とハッパをかけると、「優勝を目指して」と照れながら口にした。大学最後の年。この夏、大きなニュースが届くか…期待したい。

惜しくも2位の中村宏樹（小倉北区の出身で）地元の意識もあるし、友人も応援に来てくれていた。悔しいです。来週の麻生杯学生で勝って、日本学生選手権に行きたい。

比嘉奈津美

競技人生初のタイトルに笑顔

4打差をひっくり返しての逆転優勝に比嘉は、「ドライバーがよく飛んだし、フェアウエーも一回も外さなかったんですよ」と完璧な攻め、に口調が弾んだ。

相手は前年の優勝者、饒平名。「ワタシ、途中で崩れるタイプだから」と言う比嘉は、「今日一日だけでも負けないようにしようと思ってスタートした」と言う。

インスタートの11番（パー4）で1mを沈めて、あとはスコアカード通りの数字で我慢のゴルフが続いた。アウトに入り、5番（パー3）で上り5mを決め、続く6番で2打をダブってバンカーに入れ、おまけにグリーンでも3パットのダブルボギー。この時点で饒平名と並んでいたが、饒平名がこの後7、9番とボギーを打ち、残りをパープレーで切り抜けた比嘉に逆転勝利が転がり込んだ。

沖縄・コザ高校出身。ジュニア時代の成績は高2の県ジュニアで2位になったことがあるが、優勝歴はない。この日は、「諦めずにやったのがよかったのかな」と振り返る比嘉。気持ちも十分入っていたし、粘り強くやれたのが自身のゴルフ競技での



初タイトルにつながり、素直に喜んだ。

逆転され2位に終わった饒平名まなみ ショットは悪くなかったけど、パットが微妙にかみ合わなかった。4打差あるし、行けるかな、と思ったけど…。来週の麻生杯学生選手権でポイントを取り、全日本学生に出て雪辱したい。